

タシケントの都市強靱性戦略及び投資計画の策定を支援 (プロジェクト期間:2019年11月13日から2022年6月30日)



出典:世界銀行

プロジェクトの課題と目的

ウズベキスタンの首都タシケントは、地震や洪水のハザードに脆弱というだけでなく、気候変動の影響にも脆弱な状況にあります。順応的管理(アダプティブマネジメント)が整備されていない場合、タシケントの社会や経済は気候変動の影響を大きく受ける可能性があります。こうした脆弱性を抱えているにもかかわらず、タシケントではリスクに対する詳細なアセスメントが実施されたことがありませんでした。

都市強靱性を構築するためには、まず具体的なショックやストレス、とりわけタシケントが直面する自然災害を特定する必要があります。[日本—世界銀行防災共同プログラム](#)の技術支援プロジェクト「タシケントの都市強靱性戦略及び投資計画の策定を支援」は市の職員が、タシケントが抱える自然災害に対する脆弱性をより明確に理解することを目的としています。

本プロジェクトのもと、都市強靱性診断はすでに実施され、都市強靱性戦略及び投資計画に関する情報提供やアドバイスも行われました。さらに、タシケントの事前準備や対応能力を向上させるためワークショップや能力開発事業も実施されました。

日本の知見を活用

タシケントが抱える都市強靱性の課題に対応するため、2019年9月に実施された知見を共有するワークショップにて、富山市のレジリエンス統括監が富山市の強靱性戦略や「富山ビジョン2050」についてプレゼンテーションを行いました。富山市はロックフェラー財団から「100のレジリエントシティ」の1つに選出され、国際的にも強靱性のある都市の優良事例として知られています。

富山市はより一層強靱性のある都市を目指し、包括的な政策を開発・実施しています。レジリエンス統括監は富山市のあらゆる分野(農業、公共交通、教育)の政策はすべて長期的かつ包括的な強靱性を構築するという1つの目標に向かっていくことを説明しました。

バーチャルで行われたワークショップには、タシケント市の副市長をはじめ、様々な局の技術職員が参加しました。出席者は特定のショックやストレスを考慮した上で強靱性を構築する総合的なアプローチを開発することの重要性を学びました。富山市の実用的な事例は、市の防災についての関心を深めたほか都市の強靱性診断や主要戦略、投資計画の開発に情報を提供しました。

今後に向けて

本技術支援プロジェクトで実施された取り組みは、都市の強靱性戦略及び投資計画の開発に重要な情報提供を行いました。これは第一歩であり、都市の強靱性戦略及び投資計画の構築に向けた動きとしては、中央アジアでタシケントが初めての都市となります。すべての技術支援は、市の幹部に向けた最終プレゼンテーションをもって2022年3月に完了する予定で、その中では本技術支援プロジェクトで提案のあった行動計画や戦略、投資計画について、今後どのような取り組みを構築していくか話し合いが行われます。